

上ノ国地域漁業振興経営多角化実証計画の概要

計画概要

現状と課題

- ・檜山管内では、スケトウダラやホッケ等の回遊魚の漁獲が減少、漁業生産はこの5年で半減し、回遊性魚種に依存しない、養殖業を加えた新たな生産体制づくりが必要
- ・上ノ国地区の増養殖拠点である海洋牧場を活用し、養殖生産に取り組んでいた「上ノ国町漁業生産組合」が、着業者の高齢化等による業績不振で平成30年8月に解散
- ・漁業者の減少・高齢化が継続しており、地域の中心となる若手漁業者の確保・育成

取組内容

■アワビ養殖とウニ漁業の複合的漁業の実証事業

○若手漁業者を中心としたグループ「海洋牧場養殖事業部会」を組織し、海洋牧場の大規模静穏域を活用して、既存漁業に アワビ養殖、ウニ漁業を加えた複合的漁業の実証の取組を行う。

・事業主体：ひやま漁業協同組合

【令和元年度補助事業】

・事業内容： アワビ浮体式生け簀6基、垂下式養殖施設100m×7基(アワビ養殖施設4基、餌コンブ養殖施設3基) 養殖資材一式、蓄養施設機器

・事業費： 39,798千円 (うち道 18,425千円、上ノ国町 9,212千円、ひやま漁協 12,161千円)

【令和2年度補助事業】

・事業内容： アワビ浮体式生け簀12基、養殖資材一式

・事業費： 63,228千円 (うち道 26,464千円、上ノ国町 25,268千円、ひやま漁協 11,496千円)

期待される効果

(1)アワビを柱とした養殖業の生産体制を整備

上ノ国町の特産品である「アワビ」を主魚種として、キタムラサキウニの種苗放流を行い、回遊魚中心の生産体制から増養殖中心の体制へ段階的にシフト。

(2)道の駅「上ノ国もんじゅ」と連携した販売

道の駅「上ノ国もんじゅ」に販売窓口を設け、個人・観光・町内飲食店等に向けた販路を確保。

(3)若手漁業者の確保・育成

上ノ国町の若手漁業者を中心とした「海洋牧場養殖事業部会」を設立し、漁業生産の向上と地域の中心となる漁業者を確保・育成。

各漁場について

■上ノ国町漁場(海洋牧場)位置図



■養殖施設配置イメージ図

